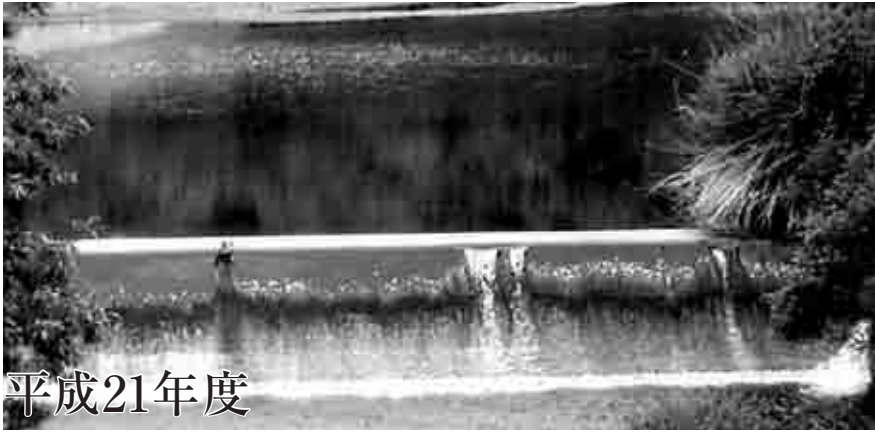


水道事業会計の決算状況



平成21年度

水道事業会計の決算状況

わたしたちの生活に水は欠かせないものであり、水道は生活を支えるライフラインの1つです。

市は、安全で良質な水道水を安定して供給するため、市民の皆さんからいただく水道料金を主な財源に、水道施設の整備や維持管理などを毎年度行っています。

今号では、平成21年度水道事業会計の決算状況を、表を使い分かりやすくお知らせします。



水道事業会計の概要

水道事業は、地方公営企業法に基づき地方自治体が経営する企業として運営しています。また、経営成績や財政状態を明らかにするため『企業会計方式』を採用しているほか、事業に必要な経費は、経営に伴う収入（水道料金収入）をもって充てる『独立採算制』を原則に経営しています。

このため、事業の運営に当たっては、公共の福祉を増進するとともに、常に効率的な事業運営を図り、企業の経済性を発揮することが求められています。

水道事業は、将来にわたり市民の皆さんへの安定給水を確保することを使命としており、そのためには、水源の確保や水道施設の整備などの事業が不可欠です。

給水の状況

(平成21年度)

給水人口	51,391人
給水戸数	22,081戸
年間給水量	422万5,552立方メートル
平均配水量 (1日当たり)	1万3,359立方メートル

収益的収入

項目	金額
収益的収入	9億4,731万円
営業収益	9億4,691万円
(うち給水収益)	8億9,706万円
営業外収益	40万円
特別利益	—
収益的支出	8億708万円
営業費用	6億7,823万円
営業外費用	1億2,190万円
特別損失	695万円
純利益	1億4,023万円

収益的収支とは、水をつくりご家庭に届けるための収支を表すものです。

収入は9億4,731万円で予算に比べ3,042万円の増となりました。一方、支出は8億708万円で予算に比べ7,413万円の減となりました。この結果、収支決算は1億4,023万円の黒字となりました。

これは、『原水及び浄水費』など、事務事業の精査を図りながら経費の節減に努めたことによるものです。

この黒字額は、国などからの借入金の今後の元金償還に備えるための『減債積立金』に4,023万円、配水管の更新などの施設整備に備えるための『建設改良積立金』に1億円を積み立てる予定です。

収入と支出の概要

資本的収支

項目	金額
資本的収入	2億4,925万円
企業債	2億3,930万円
負担金	995万円
資本的支出	6億3,194万円
建設改良費	2億3,162万円
企業債償還金	4億32万円
不足額	3億8,269万円

資本的収支とは、浄水施設や配水池、配水管の整備などに使用するための収支を表すものです。

収入合計は2億4,925万円で予算に比べ795万円の増となりました。一方、支出合計は6億3,194万円で予算に比べ3,693万円の減となりました。

この結果、収支決算は3億8,269万円の財源不足となりました。

この不足額は、収益的支出のうち現金の支出を必要としない減価償却費など内部留保している損益勘定留保資金で補てんしました。